

道徳科学習指導案

学習者 附属小学校 4年2組 34名
指導者 丸尾 剛廣

主題名 思いやりとは

1. ねらいと教材

「わたし」が気付いた「思いやり」の表し方について、「わたし」の言動が変容するに至った理由を話し合ったり、これからの自分の行動を考えたりすることを通して、相手の気持ちを察して進んで親切にしようとする判断力を育てる。

教材名「思いやり」って 出典「どうとく4 きみがいちばんひかるとき」光村図書

内容項目 B-7 親切、思いやり

(関連する内容項目 B-11 相互理解、寛容)

2. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。この場合、大切なのは適切さであり、適切さが足りなければ「冷たい」ということになり、適切さが過ぎれば「おせっかい」になる。相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べるだけでなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。

低学年では、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で相手のことを考え、優しく接することで相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるよう学習を進めてきた。中学年では、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることが求められる。

本時においては、相手の表情や言動から困りに気付くと共に、「きっと…という気持ちだろう。」というように、より深く相手の心情を理解し、「この場合、どうすることが適切なのか。」を判断した上で適切な行動が取ることの大切さに気付かせたい。

(2) 児童の実態【児童観】

本学級の児童は、友達に優しい声かけができる児童が多い。友達が困っていたらすぐに手を差し伸べる友達思いの行動が学級でもよく見受けられる。しかし、頑張っている友達に近くにいるにも関わらず大きな声で話をしたり騒いだりするような、相手意識が欠けた行動や問題の答えを教える等、傍から見るとおせっかいとも思える行動をする児童もいる。相手のことを考えて行動できていない状況が本学級にはある。このため思いやりについて考え、「思いやり」とは独りよがりのものではなく、相手の思いや状況を考えてこそのものであることに気付ける学習活動を構想していきたい。

(3) 教材の特質と活用方法【教材観】




本教材は、児童と同じ年頃の「わたし」が主人公である。同じクラスの夏実が包帯を巻いた左腕を肩から布で吊り下げて登校してきた。「わたし」は夏実の手助けをする。やがて左腕の布が取れて包帯だけになり、手も少し動かせるようになった夏実を手助けすると、夏実が悲しそうにしていると気付く。「わたし」は、それ以降手伝ってほしいかどうか夏実に聞き、自分でやりたいと言う夏実を見守るのである。

相手の思いに寄り添った「思いやり」とはどのようなものなのかについて、この時期の児童なりに深く考えさせたい。終末段階で児童の実生活の中から事例を取り上げ、「本当の思いやりとはなにか」について自分の考えを示し、全体で議論、共有していきたい（思考の可視化）。

3. 本時の学習指導過程

本時のねらい	「わたし」が気付いた「思いやり」の表し方について、「わたし」の言動が変容するに至った理由を話し合ったり、これからの自分の行動を考えたりすることを通して、相手の気持ちを察して進んで親切にしようとする判断力を育てる。
評価の着眼点	「思いやり」の表し方について、「わたし」の言動が変容するに至った理由を話し合ったり、これからの自分の行動を考えたりしているか。
具体的な児童の姿	「手助けだけが思いやりではないんだな。」 「自分も相手が喜ぶことをしていきたいな。」 「友達の気持ちや状況を考えて手助けすることが大切なんだな。」

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
3分	1. 友達に親切にしてあげた経験を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○思いやりとは何か問い、思いやりについて想像した上で本時のめあてを提示する。 ・思いやりの場面（キラキラ掃除で1年生の手伝いやお世話をする場面）をTVに映し、実生活の中での思いやりの場面を想像できるようにする。 ・児童の実体験を出し合うことで、価値への導入を図り、めあてを位置づける。	教師用 iPad TV ワークシート
めあて		思いやりについて考えよう。	
10分	2. 教科書を読み、骨折した夏実の状況や思いと夏実に手を貸そうとする「わたし」の言動の変容について考える。	○教科書を範読し、骨折した夏実の状況や思いと夏実を助けるようとする「わたし」の言動の変容を考えるようにする。 ・教科書を範読し、挿絵②を掲示しながら、児童の発言に合わせて、「わたし」の行動を板書していく。 ・骨折した夏実の困りや不自由さ、悲しさ等夏実の状況を全体で確認し、共有するようにする。 ・学級の皆で夏実を助けることになった状況で、「わたし」が隣の席で意欲的になっていることを「わたし」の表情や気持ちを基に押さえるようにする。	挿絵②
基本発問		骨折した夏実の手伝いをしている時、「わたし」はどんな気持ちだったかな。	
		<p>【想定される児童の姿（発言）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人を助けるのは当たり前だという気持ち。 ・自分にできることは何でもしようという気持ち。 ・夏実や先生から「ありがとう。」と言われ、うれしい気持ち。 <p>・「わたし」の行動にも目を向けさせ、夏実の意向を尋ねるのではなく、「わたし」の思いで行動していることを全体で確認するようにする（行動の可視化）。</p> <p>・挿絵②の「わたし」と夏実の表情に注目させ、夏実が悲しそうな表情をしていることに気付くようにする。</p>	

7分	3. 夏実の思いを聞いた理由をワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」の行動を振り返り、夏実のことを思って行動しているのに、なぜ夏実は悲しそうな表情をしているのか考えるようにする。 ・その後二人の表情がどう変化していったのか問い、挿絵③を基に二人の表情や気持ちを押さえるようにする。 ○夏実の思いを聞いた理由をワークシートに書くようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「わたし」の言動との違いに目を向けさせ、夏実の表情が笑顔に変わる要因として、「わたし」の夏実への言葉かけが変化していることに気付かせるようにする。 	挿絵③ ワークシート
中心発問 「わたし」が夏実の思いを聞いたのはどうしてかな。			
15分	4. ペアや全体で理由について話し合う。	 <ul style="list-style-type: none"> ・夏実が明るい笑顔に変わるまでの「わたし」の気持ちの変容にも着目させ、「わたし」が自分のしていることが思いやりなのか迷い葛藤していることに気付かせるようにする。 ・「思いやり」には何が必要かを考えさせるために、相手の気持ちや状況に寄り添おうとしている「わたし」に自我関与させ、考えさせるようにする。 ※考えを持ちにくい児童がいた場合は、友達から親切にもらった経験を想起するようにし、その時の気持ちを振り返るようにする。 または、導入で思いやりの場面を全体で共有しているので、その場面を基に課題について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを全員が伝えられるように、ペアで話し合った後、全体で話し合うことで、多面的に考えられるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【想定される児童の姿（発言）】 <ul style="list-style-type: none"> ・夏実がどうしてほしいか知りたかったから。 ・本当に夏実のためになることをしてあげたかったから。 ・夏実の気持ちをかくにんして、夏実が望んでいることをしてあげたかったから。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」が夏実の思いを考えて行動したことで「わたし」も夏実が笑顔になったことを押さえ、思いやりのある行動は、両者にとって幸せでうれしい気持ちにさせることに気付けるようにする。 ※一つの考えに集約するようなまとめは行わない。	
補助発問 「わたし」は何もしていないけど、それは思いやりなのかな。			
10分	5. 本時の振り返りをする。	 <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」が夏実の何もしなかった所に注目させ、何もせず見守ることも場合によっては相手のためになることを全体で共有するようにする。 ・自分の考えを相手に伝えたり、他にどんな考えがあるか知ったりできるよう、児童の様子に合わせて適宜話し合い活動（教室を自由に歩き回り友達の考えを聞くことを含む）を取り入れる。 ○「思いやり」と何か問い、具体的な場面を想定することで自分事として考えるようにし、発言を全体で認めていくようにする。	ワークシート
基本発問 「思いやり」のある行動とはどんな行動かな。			

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の普段の生活を振り返らせ、「思いやり」とはどんなものか考えさせるようにする。 ※考えを持ちにくい児童がいた場合には、チーム活動での1年生への関わりを想起させ、1年生にもたくさんできることがあり、それらを考えながら見守っていることを基に「思いやり」について考えさせる。これから1年生にどう接していきたいかを考えさせるようにする。 ・児童の振り返りを基に、一方的な手助けが「思いやり」ではないと確認した上で、「思いやり」とは、独りよがりのものではなく、相手の思いや状況を考えてこそそのものであることについて全体で共有するようにする。 	
--	--	--	--

4. 各教科等との関連

- ①各教科等で一人一台端末を使う場面や楽しい活動をする場面全般
- ②特別活動（学級活動による望ましい人間関係の育成）
- ③共生（制服の改定等多様な考えを理解し共に生活していこうとする心）

} 教育活動全体と関連

5. 成果と課題（事後研で出た話題）

【導入】

「思いやりのある行動」について実体験を出し合うと、児童が実生活の中の自分事として捉え、問題意識をより高めることができた。終末に考えた「思いやりのある行動」との違いから児童の考えを見取ることにもつながる。また、夏実やわたしと同じような経験から、共感的に理解をしながら自分の思いや考えを持つ児童も出てきたように思う。

【展開】

挿絵や表情のカードを示しながら夏実とわたしの気持ちの変化をおさえていったことは効果的であった。ただ、夏実とわたしの気持ちの変化や相互の関わりが分かるような板書にするとより児童の思考が整理された板書になる。グループやペアでの活動も、何を話し合いたいのかという意図を明確にしておく必要があった。今回で言えば、「見守るって何かしているのか？」の発問の後にグループでの話し合いの時間を設けるとより児童相互の考えが交流できたと思う。

【終末】

児童の発言の中に「考動力（考えて動く力、造語）」等、学級内で日常から共有されている言葉が出ていて、日頃の自分たちの思いや経験を基に振り返りをする姿が見られた。「思いやりのある行動」について児童に尋ねたことで、より具体的に行動について考えることができていた。